第二次指導　第１時

〈手引き〉

○ その三回目にもどってきたときのクエの様子と、太一の思ったことを書いて勉強します。これから書くところを先生が言います。印をつけてください。

六　とく

〈語義〉

○ わからない言葉はありませんか。
　大丈夫。

○ では、先生から聞きます。瀬の主とは何ですか。（瀬の主に傍点）
　クエです。

○ ここでは、クエです。瀬とは、流れの速いところ。

○ 瀬の主（サイドライン）クエ（サイドライン）と同じような意味の言葉がまだあるんです。何ですか。
　大魚。

○ そうです。（大魚にサイドライン）まだあるでしょう。
　この魚。（サイドライン）

○ みんな同じことを言っているのです。

○ それでは、おだやかってどんなことですか。

○ 今日の皆さん、穏やかですね。静かで落ち着いているということです。争いや向かっていこうという気に全然ならないということです。

○ 一人前とは、どういうことですか。
　りっぱな。
　上達している。

○ 同じ漁師であっても、技術が優れていたり、その道ですばらしい人だったりすること、大人。

○ もりって何ですか。
　魚を刺す。

○ 先生は辞典で調べたのですが、実物を見てはいないの。皆さんの方が見てるのじゃないですか。（何人かうなずく）

○ さすがね。先がとがっているでしょう。（図を書く。中心にとがった山を書く）両側にも。（両脇にちいさなとんがりを書き足す）さらに長い棒がついていて、（柄となる棒を書き足す）鎖みたいなものでつないでいる。

〈区分〉

○ この文章を二つに分けたい。誰のことと誰のことですか。
　太一とクエ。

○ 大きく分けると、クエのところは、ここでいいですか。（三行目、「だった」までを弧線）
　（子どもたちうなずく）

○ （残りを弧線でくくり）太一が思ったことです。

○ 太一が思ったことをさらに二つに分けたい。太一の気持ちが大きく変わったところがあるのです。どこで分けたらいいですか。
　もりの刃先を。（もりの刃先の前後を弧線）

○ この前と後ろで、太一が大きく変わっているところがあります。何が変わっていますか。
　クエに対しての心。

○ そうですね。でも、もっと、わかりやすく変わっているところがあるんです。何でしょうか。
　太一の心。

○ すごいね、皆さんは心の方をちゃんと見ているのだと思います。でも、もっと見てすぐわかるところ、このときの太一の表情、前はどうですか。
　泣きそうになりながら。

○ 後ろはどうですか。

笑顔。

〈心〉

○　笑顔になっている。大きく変わっているでしょう。泣きそうになっているのはどうしてかというと、前は、どうしなければいけないと考えていたのですか。

殺さなければいけない。

○　クエを殺さなければいけないと考えていた。とる（とらなければにサイドラインを引き、隣に「殺す」と板書）とは殺すこと。

○　一人前の漁師と言っているけど、太一は、一人前の漁師じゃなかったのですか。与吉じいさには、もう、お前は村一番と言われているでしょう。（間をおいて）でも、心の中で、太一は一人前は誰だと思っているのですか。

おとう。

○　おとうのようになりたいと思うからこのクエを殺さないといけないと思っている。ところが、おとうがこのクエに命をどうされたの？

とられた。

○　ということは、殺したいけど、自分はこのクエに殺されるかもしれない。（一人前の漁師の右隣に、殺されると板書）勝てそうか？いや、無理だ。おとうだってやられたんだ。もしかしたら、殺したいけど殺される。だから、表情がどうなの？

泣きそうになった。

○　その時、クエをしっかり見たら、クエはどんな目をしていましたか。

おだやかな目。

○　もりを突き出しても、何をしても、穏やかな目をして、誰を見ているのですか。

太一。

○　この大魚は太一をしっかり見ているのです。それを見ているうちに、この大魚は自分にどうされたがっているか。

殺されたがっている。（サイドライン）

○　これを殺したら、太一は誰よりも強いことになるのですか。

おとう。

○　でも、殺してしまったら、あれほど父の言っていた海の恵みはなくなるんじゃないか。

○　親の気持ちになると、誰も、お父さんやお母さんを超えて大きくなってほしいと思うんですね。自分を超えて大きくなっていけよと思うのですね。自分を超えて大きくなっていけよと思うのは、まさに、誰ですか。

クエ。

○　クエを誰だと思ったのですか。

おとう。

○　思わず言いましたね。敵だと思っていたけど、おとうだった。

○　殺さないですんだんだね。殺そうとしたが、殺せない。殺したくない。このクエは海の何だと思ったのですか。

海の命。

○　ここまで考えた時間は何分か。どれくらいか。ほんの。

一瞬。

○　明日、その後の太一のことを勉強します。読んで終わりましょう。

第二次指導　第２時

〈手引き〉

○　５番、「村一番の」から最後までを書いてください。

六　とく

○　太一はどんな漁師になりましたか。

村一番の漁師。

○　太一は、クエと出会った後、村一番の何の漁師になったのですか。

もぐり漁師。

○　もぐり漁師になりましたか。

一本釣り漁師。

○　もぐって出会ったけれども、やっぱりおとうのようにはならないで、一本釣りの漁師として、村一番の漁師でいたという話です。

〈語義〉

○　わからない言葉はありますか。

ありません。

○　大丈夫ですか。では、聞きます。「あり続ける」とは、どういうことですか。

そのまま。

○　今年は魚がよく捕れるからやるけど、今年は捕れないからやめるということじゃないね。それをずっととぎれることなく続けていくということね。

○　巨大とは、どういうことですか。

大きい。

○　ただ大きい？

ものすごく大きい。

○　クエの大きさは、二メートルとか三メートルだけど、この会ったクエは何メートルくらいだと思いますか。

三メートル。

○　三メートルかな四メートルかなそれもわからないくらい岩のように大きい。ちょっと大きいんじゃない、かなり、スケールが大きい。

○　生涯って何ですか。

死ぬまで。

○　生きてる間死ぬまで。一生死ぬまでですね。

〈区分〉

○　この文章を二つに分けたいのですが、どこで分けたらいいですか。

海のいのちは変わらないの後。（弧線を二本引き、分ける）

○　なるほど、そういう分け方がありますね。

○　ほかの分け方もあるのだけれど。

太一は村一番の漁師であり続けたの後。（前の弧線を消し、新しい分け方の弧線を引く。）

○　どちらも間違いではないのです。ただ、今日は、この分け方で勉強していきます。

〈心〉

○　前は、太一がどうなったということですか。

村一番の漁師。

○　村一番の漁師であり続けられたということ。その理由が、後ろに書いてありますね。この後ろがさらに二つに分けられる。どこで分けたらいいですか。まず、一つめは。

うみのいのちは変わらない。

○　ここがまず、一つでしょう。（海のいのちは変わらないまでを弧線でくくる）もう一つは残りね。（残りも弧線でくくる）

○　前の海のいのちは変わらないとは、誰が教えてくれたことですか。

与吉じいさ。

○　与吉じいさが大事なことを教えてくれたんだよね。千びきに一ぴきとればずっと漁師をつづけられるよと。だから、ちゃんと教えを守っている。

○　では、後ろの方は誰が教えてくれたのだろうね。クエとは誰だったかな。

おとう。

○　おとうが教えてくれた。

七　よむ

○　声に出して読みます。腰を立てて、最後ですから、大きい声で読みましょう。